
カラこもり

仕神けいた

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カラこもり

【Nコード】

N3678B

【作者名】

仕神けいた

【あらすじ】

場所もわからぬ暗いところ……全てが暗いその中で、染まる色は赤と青。

（前書き）

すいません m（　　） m

先に謝っておきます。

思いつきのままに、推敲もなしで書き連ねたのでストーリーになってないと思います。ご容赦ください。（推敲と書き直しは時間をみてやる予定なのですが……）

床も壁も、ただ一つの単語で埋め尽くされていた。

殺す……殺す……殺す　殺す　殺す　殺す　殺す　殺す
殺す　殺す　殺す　殺す　殺す　殺す　殺す　殺す
殺す　殺す　殺す　殺す……

真っ赤に染まった壁床に、ごろんと転がる碧眼の少年。
いつからここにいたのか、生まれたときからいたのか。
狭く、暗く、乾いた部屋。
一体何でできているのか。
窓は一つもありはしない。
なのに、床と壁は赤く見えていた。
少年の瞳は青く輝いていた。

——憎しみの色だね

声がする。

「名もなく、親もなく、言葉を知らない君。さあ、君の声を聞かせてごらん」

声に応じて少年は起き上がる。

磨り減った両手の先は、再び真っ赤な言葉を刻む。

「……殺す、殺す、殺す、殺す、殺す、殺す、殺す、殺す……」

少年は、ただひたすら刻んでいった。
たった一つ与えられた『殺す』という言葉を唱えながら。

頭に響く声のままに、一つ覚えの言葉のままに。

彼は言葉を持たずに疑問を持つ。

それはやがて不快となり、時を経て、憎しみへと変わっていく。

憎しみへの連鎖を覚えてく。

憎しみだけを憶えてく。

無心とも夢中とも違うその行為。それはまるで狂気にみえた。狂気がつくった輪廻にみえた。

「叫びも知らない、慟哭もわからない、君はただただ刻むだけ」

声がする。頭のどこかで声がする。

「さあ、たくさんたくさん憎んでおくれ。

僕一人だけを憎んでおくれ。

君には僕しかないんだ。

僕にはここしかありはしない。

君は僕を殺すんだ！」

こだまするように、少年の頭に響き渡るように声は叫び、そして消えてった。

夜も朝も昼もない。

空も大地も海さえない。

周りは暗く、そして赤い。

少年の動きがぴたりと止まる。

碧い眼は、ごろんと寝転がってゆっくり閉じた。

声が聞こえてくることを、ずっとずっと待っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3678b/>

カラこもり

2010年10月11日22時50分発行